



銀杏 《 愛校 自主自律 》

～生徒一人一人が主役を果たす、「生徒が育つ学校」の創造～

宮内中学校 学校だより

宮中生徒会役員改選の時期となりました・・・

第8波となる勢いで猛威を振るう新型コロナ・・・あまりにも突然の激増により、不本意ながら、今年度の宮中祭（特に、地域文化体験講座・合唱コンクール）は、中止の判断をさせていただきました。大成功だった体育祭や大活躍の県南ブロック新人大会後の、短い期間での準備や練習に奔走した宮中生の想いがたくさん詰まっていた文化祭が、その幕を開けることができなかつたことに対し、本当に申し訳なく思います。

本来なら、今年度の集大成となる宮中祭を振り返り、そして「来年は、こんな宮中祭に変えていくぞ」という強い意気込みを募らせながら、次期生徒会の具体像を膨らませていく時期ではありますが、今年度は、このコロナと対峙しながら、その上で先輩方が創り上げてきた宮中生の誇りと伝統を受け継ぎ、新たな発想と行動力を示すべく、令和5年度宮中生徒会役員改選を迎えました。この良き伝統を後世に伝えようと、候補者一人一人が真剣になって活動してくれました。選挙活動にも、その思いが込められていました。

その心意気を大事に受け止め、共に時期生徒会につなげてほしいと思います。新生徒会メンバーは、後日、紹介いたします。ますますの活躍を期待しています！！



県新人決勝大会でも大活躍・・・ 祝 優勝 ソフトボール部



県南ブロック新人大会から勝ち進んだソフトボール部（川西中と合同チーム）と女子ソフトテニス部は、それぞれ、県の決勝大会へとコマを進めました。そして、県の頂点を目指して激戦を制し、ソフトボール部が見事、県優勝、女子ソフトテニス部は県第3位の成績をおさめました。本当におめでとうございます。

ぜひ、来年度に向けて、更なるパワーアップしてほしいと思います。ご支援くださった保護者の方々や関係の皆様にお祝いと御礼を申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



全校道徳・・・マリールイズさんの魂のお話を伺う・・・



日本は幸せな境遇 教育が未来の扉開く

11月29日付 山形新聞より抜粋

本校の情操教育の1つとして、全校生が一堂に会して行う「全校道徳」があります。この11月14日(月)には、NPO法人 ルワンダの教育を考える会の理事長をなされている永遠瑠マリールイズさんをお迎えし、真の幸せは何なのかを学びました。

講演の後、校長室でもいろいろなお話を聞かせていただきました。お名前の「永遠瑠」は「とわり」と読むようですが、この文字には、「永遠に“ル(瑠)ワンダ”を思い続ける」との決意が込められているそうです。また、「真剣なまなざしで、一生懸命に心を開いて話を聞いてくれた生徒さんのすばらしさに感動しました。とてもいい学校ですね。」と、宮中生の姿を称賛していただきました。この言葉は、私にとって、「真の幸せ」の1つになりました。

みなさんは、今回のマリールイズさんのお話をお聞きして、どんなことを感じたでしょうか・・・？

12月の主な予定

- 1日(木):市芸術鑑賞教室(シェルター)
- 2日(金):生徒総会に向けた学級討議
- 3日(土):3年生PTA親子行事
- 5日(月):人権擁護教室(1学年)
:校内進路指導委員会②
- 6日(火):教職員研修のため5校時授業
- 8日(木):後期生徒会総会
- 12日(月):校内進路指導委員会③
- 13日(火):大掃除
- 14日(水)~:3年生三者面談開始
- 17日(土):吹奏楽部アンサンブルコンテスト
- 23日(金):進路激励会
:2学期終業式

★令和4年もあっという間でしたね・・・

税についての作文コンクール表彰！！

11月17日(木)、米沢グランドホクヨウにて、「税についての作文コンクール」表彰式が開催され、2名の生徒が表彰されました。その席上、2年手塚宙夢さんの作文朗読もありました。

私たちの生活の多くは“税金”によって支えられていますが、家族とのつながりから税の大切さを綴ってくれた作文に感動させられました。今後、ぜひ、紹介させていただきたいと思います。

【優秀賞】

2年 手塚宙夢さん

【米沢税務署長賞】

1年 木下愛理さん



【校長の独り言・・・】

昭和64年の1月、蔵王にあるペンションで住み込みのバイトをしていました。当時は、映画「私をスキーに連れてって」のブームなどもあり、スキー場は、連日大賑わいの時代でした。ペンションでは、喫茶担当でコーヒーや軽食をお客さんに提供していました。晴れた日は、皆さんスキーを楽しむので、お客はおらず仕事はヒマです。反面、吹雪の日は、頻繁に暖をとるお客で、仕事は大忙しです。ある時、レモンスカッシュを提供したとき、ガムシロップを入れ忘れ、単なる酸っぱい水を提供していたことに気づきました。でも、クレームをつけられるどころか、全てを飲み干して下さっており、どこの誰かはわかりませんが、今でも申し訳ない気持ちを持っています。また、夜、誰もいないゲレンデに愛車を持ち込んで、映画「私を・・・」の気分に入ったこともありました。冬の間は2年間、このペンションにお世話になりました。時代の古き良き思い出となっています。

先日、そのオーナーが他界され、三十数年ぶりに無言の再会をさせていただきました。仕事に真つづくに向き合い、多少の失敗よりもお客さんの笑顔を大事にされている方で、バイトを通して人としてあるべき生き方を教えてくださったと感じています。今の自分があるのも、オーナーの背中があったからこそと言っても過言ではないかもしれませぬ。自分の方々の出会いを、これからも大切にしたいと思います。

